

第65回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2020）開催要項

プログラム1（報告）

第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）の報告

プログラム2（フォーラム）

2020 東京五輪後における実学対抗戦のあり方を考える—検証と課題—

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムや講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

過去4回の指導者会議のテーマは次の通りでした。1）第61回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2016）：日本実業団陸上競技連合と日本学連の相互協力をキーワードとして学生アスリートの就職支援や就職後の練習環境支援に関するテーマ。2）第62回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2017）：リオ代表（オリンピック/パラリンピアン）の現役学生アスリートとベテラン社会人アスリートをパネリストとして迎え、「大きな舞台に出場して見えてきたもの」「学生時代にやっておくべきことは何か」のテーマ。3）第63回指導者会議（平成29年度ユニバーシアード強化研究会）：「ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題」。4）第64回指導者会議：「個人選手権大会のあり方を考える—検証と課題—」。

今回のフォーラムは、上記会議の成果等も参考としながら、日本実業団陸上競技連合（実業団連合）・日本学生陸上競技連合（学生連合）が主催する実学対抗戦に焦点を置きます。本フォーラムの目的は、2020東京五輪後の実学対抗戦のあり方を考えるために、現状の世界陸連ワールド・ランキング制度や中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、実学対抗戦（第1回～第59回）の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。各演者には検証の視点（注1）と資料（注2）を参考にして発言してもらいます。また進行についてはフロア（指導者や学生幹事ら）も含めて活発な意見交換の場になるように努めます。

注1）検証の視点：実学対抗戦（第1回～第59回）の歩みや特徴など

注2）参考資料：実学対抗戦の歩み（概要）、世界陸連ワールド・ランキング制度（IAAFポイント・ランキング制度）、アジアパーミット大会など

記

1. 主 催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
2. 日 時 2020年（令和2年）2月29日（土）（理事会終了後）：
聴講者入室 15:20～15:30 報告：15:35～15:55 フォーラム：16:00～17:50
3. 会 場 TKP 品川カンファレンスセンター、ホール6D（〒108-0074 東京都港区高輪3-26-33 京急第10ビル）
4. 対 象 日本学生陸上競技連合関係者（地区学連、加盟校等）、実業団関係者、陸上競技愛好者（大学等）
5. 定 員 100名
6. 司 会 障子恵氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）
7. コーディネーター 船原勝英氏（共同通信社、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員・総務委員会委員）
8. 演者（順不同）：
プログラム1（報告） 安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督、学生連合：強化副委員長）
プログラム2（フォーラム）
酒井勝充氏（ユニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）
栗山佳也氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）
関根春幸氏（東京都立世田谷総合高等学校、学生連合：常務理事・競技委員長）

以 上